

第  
16  
回

# 十湖賞

## 俳句大会 入選句集

令和6年2月発行

<発行元> 浜松市中央区東地域俳句の里づくり事業実行委員会

<事務局> 浜松市中央区東行政センター 地域振興担当

浜松市中央区流通元町 20 番 3 号

TEL 053-424-0115

E メール e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp



# 「十湖賞」と「浜松市中央区東地域俳句の里づくり事業」

江戸時代末期、松島十湖翁は、現在の浜松市中央区(旧東区)豊西町に生まれ、俳人にして政治家、さらには地域貢献に務めた篤志家です。生涯に詠んだ句は七千句とも言われ、全国各地に多くの門人がいました。

十湖翁の俳句は、松尾芭蕉からの蕉風を継承すべく、花鳥風月といわれる春夏秋冬・四季折々の自然、その中で生活を詠む伝統的なものです。

「はま松は出世城なり初松魚」は、「出世の街・浜松」を象徴した、浜松を誇る気持ちを詠んだ句です。本事業では、こうした十湖翁の遺徳を称えとともに、「郷土を愛する心」を今に伝えるべく「十湖賞」俳句大会を開催しています。

元来、中央区東地域(旧東区)には多くの句碑群があり、多くの俳人も輩出していることから、「俳句の里」としての側面を垣間見ることができます。

浜松市中央区東行政センター及び実行委員会では、このような背景のもと、「浜松市中央区東地域俳句の里づくり事業」を行っています。

## 第十六回「十湖賞」俳句大会入選句集

令和六年二月十一日(日・祝)  
於 浜松市総合産業展示館 北館4階1号ホール



### 目次

|       |          |
|-------|----------|
| ごあいさつ | 2・3      |
| 十湖大賞  | 4        |
| 十湖賞   | 5        |
| 区長賞   |          |
| 県教育長賞 | 6        |
| 市教育長賞 |          |
| 特選    | 7        |
| 佳作    | 8・9      |
| 奨励賞   | 10<br>13 |

### 選者

天野 薫氏

(「みづうみ」主宰)

高柳克弘氏

(「鷹」編集長)

村松二本氏

(「椎」主宰)

百合山真苗氏

(「海坂」編集長)

※五十音順

### 第十六回「十湖賞」俳句大会投句実績

| 一般の部 |       | 高校生の部 |       | 中学生の部 |       | 小学生以下の部 |       | 全 体   |        | 一般の部・地域別 |       |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|--------|----------|-------|
| 人数   | 投句数   | 人数    | 投句数   | 人数    | 投句数   | 人数      | 投句数   | 人数    | 投句数    | 地域       | 投句数   |
| 683  | 1,323 | 1,708 | 3,061 | 2,750 | 4,311 | 2,099   | 3,534 | 7,240 | 12,229 | 市内       | 443   |
|      |       |       |       |       |       |         |       |       |        | 県内(浜松市外) | 128   |
|      |       |       |       |       |       |         |       |       |        | 県外       | 751   |
|      |       |       |       |       |       |         |       |       |        | 国外       | 1     |
|      |       |       |       |       |       |         |       |       |        | 合計       | 1,323 |

※募集期間:令和5年7月1日(土)~令和5年9月30日(土)

## ごあいさつ

浜松市中央区東地域俳句の里づくり事業実行委員会

委員長 松島 知次

第十六回「十湖賞」俳句大会は、全体で七、二百四十人、一万二、三二九句もの投句をいただきました。投句者数・投句数ともに前回大会を上回る結果となり、多くの方々に本事業を知っていただいていることを大変喜ばしく思っております。

令和五年は、新型コロナウイルスが5類に移行して初めての年となりました。皆様の中には、少し足を延ばして遠出をしたり、旧友との再会を楽しんだ方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。その中で感じた思いなどを句に込めて、素晴らしい句を詠んでいただきました。浜松市中央区東地域俳句の里づくり事業実行委員会では、これからも俳句を通じ、郷土を愛する気持ちを育むとともに、俳句文化の振興を図るため創意工夫を重ねてまいります。

終わりに、入選された皆様にご心よりお祝い申し上げますとともに、選者の皆様、並びに事業推進にご尽力いただきました関係者の皆様へ厚くお礼を申し上げます。皆様方の今後ますますのご活躍、ご多幸をお祈り申し上げまして挨拶とさせていただきます。

浜松市中央区 参与 野田 志保

浜松市中央区東行政センターでは、現在の浜松市中央区(旧東区)豊西町に生まれ、明治・大正期に活躍した俳人松島十湖翁により培われた俳句の盛んな地域性を活かし、平成十九年度から「俳句の里づくり事業」を実施しております。

今年度は「十湖賞」俳句大会をはじめ、若年層への俳句の普及を目的とした「小中高校俳句講座」や、市内高校生による「高校生俳句選手権」を四年ぶりに開催するなどしてまいりました。「十湖賞」俳句大会では、市内だけでなく全国各地から、前回大会を上回る多くの皆様に投句いただきましたことを、大変喜ばしく思っております。

令和六年一月一日の行政区再編により、東区は「中央区」に編入されましたが、引き続き、地域の大切な財産として俳句大会を盛り上げると同時に、地域の皆様に郷土を愛する心を育んでいただけるよう創意工夫を重ね、本事業に取り組んでまいります。

結びにあたり、大会に投句いただいた皆様、選考していただいた選者の皆様、そして本事業に携わっていただいた全ての皆様に深く感謝を申し上げます、挨拶とさせていただきます。

## 十湖大賞・十湖賞へ一般の部▽

### この星の湖を蜻蛉の尾が叩く

浜松市中央区 伊藤 斉

評：蜻蛉の産卵の風景である。「この星」と大きく打ち出して、そこから「湖」にズームアップし、さらに小さな「蜻蛉の尾」に限定していく。視点の変化がダイナミックだ。地球に生きる同輩として蜻蛉の命が輝いて見える。(高柳克弘)

## 十湖賞

△高校生の部▽

### 推しのため死ぬ気で稼ぐ夏休み

浜松修学舎高校二年 中村 真維

評：「推し」はアイドルなどに薦めたいほど好意を持っている人物のこと。夏休みはアルバイトに精を出し「推し」のライブやコンサートに出かけるのだろうか。「必死で稼ぐ」が決して誇張に聞こえない。のんびり過ごしたいのはやまやまだけれど、ひたすら「推しのため」に働くのだ。(村松 二本)

△中学生の部▽

### ゆったりとジンベイザメの泳ぐ夏

笠井中学校一年 八代 唯斗

評：ジンベイザメは肉食の鯨と違い小魚やプランクトンが餌の為、性格もおとなしい。沖縄の美ら海水族館を訪れた時の句と想像した。悠悠と泳ぐ姿に興奮しつつもジンベイザメらしく大らかに詠んでいるところが素晴らしい。(百合山真苗)

△小学生以下の部▽

### 上靴の小ささ気づく休暇明

三方原小学校六年 縣 和志

評：「休暇明」秋の季語。夏休みが終わり明日から二学期。持ち物や課題などを整える。さて上靴。念のため履いてみるが履けない。自らの成長に改めて気づく。その感動を中七に表した。語彙の選択がよく季語が相応しい。(天野薫)

## 区 長 賞

### △一般の部▽ マスクメロン皮まで食べし子も父に

栃木県芳賀郡 日渡 守

評・幼い頃、美味しいと皮まで食べた子も今は父。お子さんも父親と同じようにメロンを口にしているのだろう。目前の子と父を重ねて詠った。句材の見つめ方がよい。成長した父への思いと幸せ・微笑まじさに心が和む。(天野薫)

## 県教育長賞

### △高校生の部▽ 弁当にどんどんふえる夏野菜

浜松東高校一年 大倉 颯太

評・食べ盛り育ち盛りの大きな弁当箱が目には浮かぶ。彩りの為にも野菜が欠かせないが、夏は中身の様子が一変。採れたての野菜が場所を占める様に。旬の野菜で一杯になってゆく様子が面白く、「どんどん」に勢いを感じる。(百合山真苗)

## 市教育長賞

### △中学生の部▽ ホルン吹く音楽室にハチ入部

笠井中学校一年 鈴木 汐音

評・音楽室にハチが入ってきたことを「入部」といったのが楽しい。騒ぎになっただろうが、このアクシデントを面白く眺めている余裕も感じられる。「ホルン吹く」の導入ものでかで、春らしい勢開気を醸し出している。(高柳克弘)

### △小学生以下の部▽ そういえばおれってこの夏何してた？

中瀬小学校五年 大城 澤走

評・夏休みに入る前はあれもやろうこれもやろうと思っていたけれど、いざ始まってしまつと毎日をだらだらと過ごしてしまつた。そんな後悔にも似た思いがこんなつぶやきをもたらしたのでしよう。しかし、時間の無駄遣いは若さの特権なのかも知れません。(村松 二本)

## 特 選

### △一般の部▽

月光のシーラカンスに届かざる

山口県周南市 藤井 香子

虫の音にイヤホン胸に揺れており

浜松市中央区 齋藤 亜佐子

### △高校生の部▽

休みの日私はラムネ父は酒

聖隷クリストファー高校一年 太田 凜

サイダーの気が抜けるほど気がおけぬ友

浜松修学舎高校一年 前田 悠花

### △中学生の部▽

夏料理匂い辿れば我が家へと

笠井中学校三年 葛谷 美帆

休み明け不安湧き立つ雲の峰

積志中学校三年 鈴木 開太

### △小学生以下の部▽

プカプカとラッコになつてうくプール

中郡小学校五年 水野 雄大

クワガタよその角おれに向けてみる

蒲小学校六年 鈴木 璃杏

## 佳作

### △一般の部▽

露けしや鳥の墓標に鳥の寄り

兵庫県神戸市

佐藤英子

正月や生家の埃美しき

東京都東久留米市

大山園枝

噴水に洗はれ沈む夕日かな

兵庫県神戸市

安井健一

星月夜旅のリユツクを枕とす

埼玉県さいたま市

吉田孝子

野地蔵は寺に移され母子草

浜松市浜名区

中川正男

新米の袋に残る香りかな

愛知県東海市

松島容子

### △中学生の部▽

おこられてすねて桜を見てる猫

笠井中学校一年

倉嶋乙希

乱取りを終えて涼風帯はずす

笠井中学校一年

西岡優杏

アブラゼミ寡黙な父も歌い出す

浜松聴覚特別支援学校二年

鈴木菜桜

空を見る人道雲も僕を見る

中郡中学校二年

藤本芽衣

道真の力借りたい夏休み

天竜中学校三年

伊澤泰獅

素麺の氷も食べる暑さかな

八幡中学校三年

佐原愛望

### △高校生の部▽

炎天を切り裂いて立つ長刀鉾

浜松北高校一年

石田万結

麦秋や母と頬張るカレーパン

浜松北高校一年

鈴木結

風鈴の音をも収める一眼レフ

浜松北高校一年

山本愛莉

梅雨ごもり人と人をつなぐ本

浜松東高校一年

鈴木栳蓮

登校日朝日を浴びて羽化をする

掛川東高校二年

高塚心海

成人し亡き父思ふ春の雨

浜松日体高校三年

和田篤典

### △小学生以下の部▽

なつやすみできたよできたまえまわり

県居小学校一年

鳥居慧

えがきたいマリーゴールドまだつぼみ

与進小学校三年

井口仁菜

なえそだても様が出たぞちびスイカ

笠井小学校三年

山口稜雅

白靴だ遊びに行くと黒靴に

中郡小学校五年

北嶋佑那

とうさんを追いこしのぼる夏の山

中ノ町小学校六年

千葉悠生

かき氷パパに秘密で食べに行く

蒲小学校六年

渡辺香佳

# 奨励賞

△一般の部▽

熊本県熊本市

炊事終へ暫し歳時記汀女の忌

榎木 俊彦

浜松市中央区

幸せかと母に問ひたし雁渡し

安立 由美子

浜松市中央区

杖を置きピント合わせる遅桜

鈴木 章正

浜松市中央区

清楚たる仙人草の裏知らず

鬼束 博文

和歌山県紀の川市

怒ること戒められて秋燕忌

中島 紀生

愛知県名古屋市中

知らぬ間に都顔なる帰省かな

山内 基成

東京都板橋区

あまりにも眼鏡が似合ふ君に雪

花月 大師

新潟県新潟市

齒車のやうに滑らか猫の恋

佐野 和太留

浜松市中央区

風尖るこの地に生まれ大根干す

加藤 美智代

浜松市浜名区

母の日や兵士見上ぐる青き空

市川 敏

△高校生の部▽

静岡商業高校一年

盗み食い見つける母の目はふくろう

岩田 妹璃亜

西遠女子学園高校一年

塩飴や路地の逃げ水追いかけて

吉山 綾乃

浜松市立高校一年

夏惜しむ新幹線と祖母の顔

新田 佳音

浜松北高校一年

40℃蚊も飛び回る力なし

宇田 智輝

浜松北高校一年

打水で私の心洗おうか

大角 紗央莉

浜松北高校一年

一日の早さはまるで鰯雲

大橋 柚佳

浜松北高校一年

ヒット待つ楽器にぎる手汗にじむ

兼子 夕奈

浜松北高校一年

しもばしらああ今日もまたちこくかな

高木 彩希

浜松修学舎高校一年

砂浜で素足にささる熱の剣

高林 遥人

沼津城北高校一年

百合柄の浴衣寂しく君を待つ

マッグデイ 愛桜

浜松市天竜区

手のひらへくりーむたと草刈り女

鈴木 福子

福岡県大牟田市

秋風やエミューの足の蹴る大地

藤尾 裕子

静岡県磐田市

眼鏡かけ眼鏡はずして夜長かな

松本 厚史

愛知県名古屋市中

星砂の小瓶に夏を惜しみけり

村田 和司

広島県廿日市市

係留の帆柱軋む朝ぐもり

日比野 さき枝

静岡県裾野市

刈られても刈られても亦吾亦紅

佐藤 モト子

富山県富山市

灼熱や地球は今も青いだらうか

小林 森ん波

浜松東高校一年

勉強は明日やるよと夏終わる

杉岡 湊

浜松東高校一年

長袖をがさつにまくる夏の朝

古橋 瑛太

掛川東高校二年

セミよりも声だし走る部活動

長田 唯愛

掛川東高校二年

先祖さま間に合うのかな茄子の牛

山崎 香羽

浜松市立高校二年

ボトムスの隙間抜けるや空つ風

柴田 奎哉

浜松市立高校二年

はしゃぐ子の潰れる髪や夏の雨

高田 周

浜松修学舎高校二年

灼熱のダイヤモンドを駆け回る

原村 恒成

浜松修学舎高校三年

年明けてみんなで作る新時代

杉村 碧世

浜松修学舎高校三年

夏の日の少しつめたい机かど

松山 永遠

浜名高校三年

授業中窓の額ぶち積乱雲

鈴木 菜月

# 奨励賞

△中学生の部▽

望遠鏡視かなくても天の川

中部中学校一年  
佐々木千寿

太陽の仕事少ない冬が来た

中部中学校一年  
筒井堅登

僕のこともう起こすのかほととぎす

天竜中学校一年  
加藤瑛次朗

ダイニングあかりつけたらさくらんぼ

天竜中学校一年  
田中那海

入学しドキドキ感が止まらない

中郡中学校一年  
吉村心優

春愁に隻影つけて鬼遊び

丸塚中学校一年  
稲垣芦菜

令和より昭和が涼しい扇風機

笠井中学校二年  
小山芽依

春近し親からもらうシャープペン

中郡中学校二年  
大石海斗

ペダルこげ入道雲が迫りくる

丸塚中学校二年  
劉伊織

夏休み日と消しゴムが減ってゆく

与進中学校二年  
中嶋結菜

△小学生以下の部▽

なつのそらくもがへんだよさあかえろ

与進小学校三年  
寺田剛

てがまっかおおものつれたなつのうみ

可美小学校四年  
伊奈桜助

あとすこしくやさかったなうんどう会

可美小学校四年  
鈴木こなつ

弟のたいこ鳴る鳴る夏祭り

蒲小学校四年  
早川薫

にわでやく写真のじいじと食べる肉

豊西小学校四年  
相羽ののか

夏祭りさがしたつもりがさがされた

与進小学校四年  
吉田拓真

回泳で目と目が合って力わく

県居小学校五年  
高橋晃正

オリオンに光の秘訣たずねけり

積志小学校五年  
飯吉ひなた

雪の日にホットココアのゆげあまい

積志小学校五年  
波多野杏奈

ふりだしに戻れないかな夏休み

積志小学校五年  
森田琉聖

ビール飲みにくつと笑う祖母の顔

笠井中学校三年  
今村里実

遠雷や家事に勤しむ母の声

笠井中学校三年  
鈴木太羅

熱い友厚いテキスト夏期講習

笠井中学校三年  
鈴木琢真

共鳴す夕立の音と基礎英語

積志中学校三年  
石川菜名子

陽炎や古都のお土産手をふさぐ

積志中学校三年  
山本莉子

向日葵と微笑む君は瓜二つ

天竜中学校三年  
石山紗穂

冬の風机に向かう深夜二時

天竜中学校三年  
曽我峻斗

初空や筆先集中一画目

天竜中学校三年  
平野正恵

返り梅雨着るはずだったワンピース

浜松日体中学校三年  
栗野詩織

喉の奥ガブツとかみつくソーダ水

与進中学校三年  
山口乃々実

海開き口を開けば水辛し

有玉小学校六年  
竹下ひかり

茎ピンと立てあんみつのさくらんぼ

神久呂小学校六年  
西村桜

扇風機ぬすまないでよお姉ちゃん

蒲小学校六年  
平澤岬弥

バラが咲く咲かせた根っこ見てあげて

蒲小学校六年  
藤田このみ

遊園地着く前見えた五月富士

中郡小学校六年  
堀達哉

ナウシカの空にもくもく入道雲

中ノ町小学校六年  
青葉優莉

キャンプして心が一つになった朝

中ノ町小学校六年  
芳賀日菜里

楽しみは年こしそばを食べる時

和田小学校六年  
山田佳音

太陽が本気を出して夏来たる

和田東小学校六年  
小枝優月